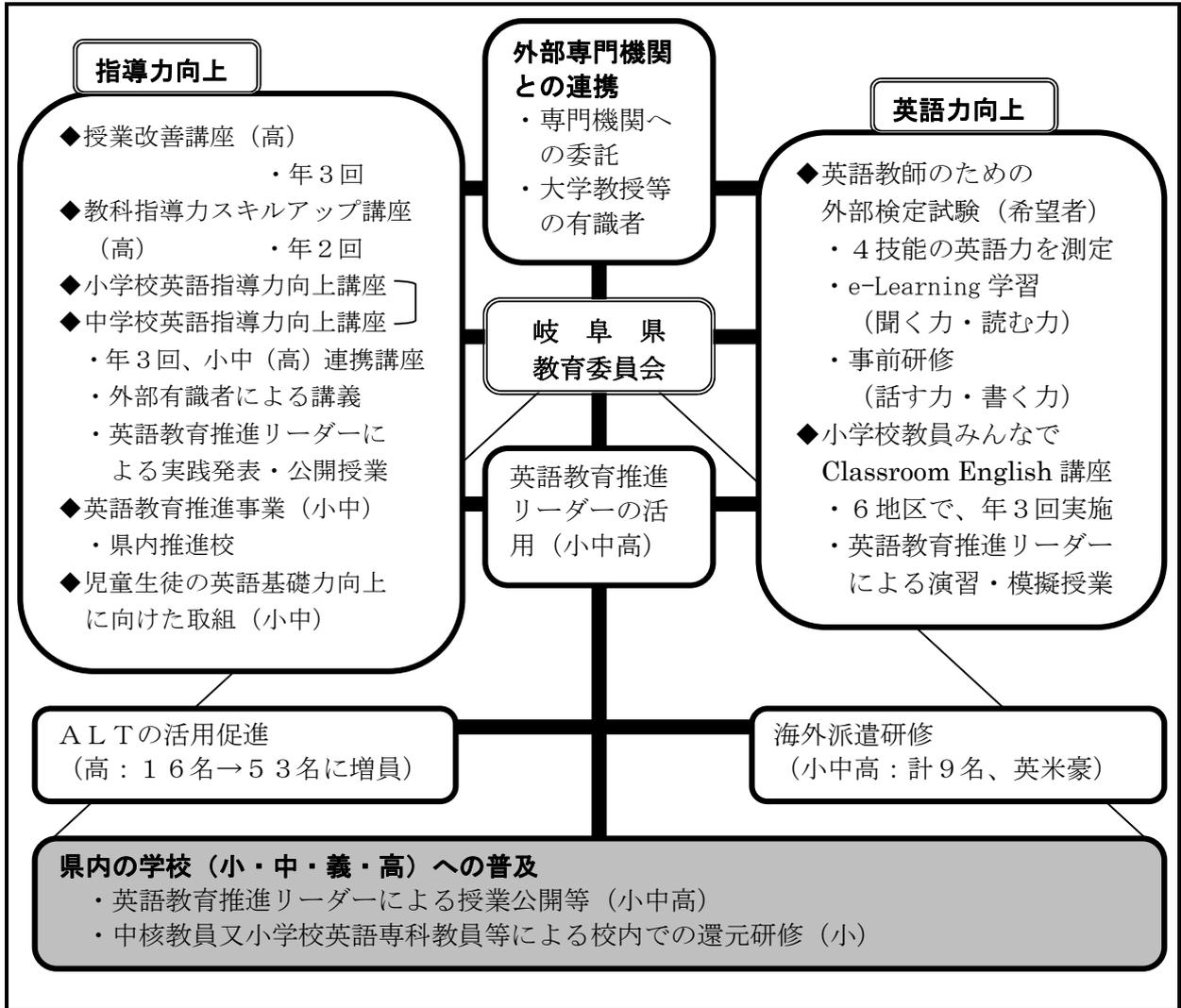


岐阜県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

①求められる英語力（CEFR B2レベル相当以上）を有する英語担当教員の割合

【目標及び数値指標】

・別紙 目標管理書のとおり

【R1現状】・高等学校 80% ・中学校 26%

【方 策】

- ・小学校の英語専科教員及び中・高等学校の英語教員の聞く力・読む力を高めるための e-Learning 学習や、話す力・書く力を高めるための事前研修を充実させ、その成果検証を目的とした、4技能の英語力を測定する外部検定試験を実施する。
- ・海外派遣研修参加者に対して、海外の大学に派遣し、英語力・指導力を高める研修を行い、その効果測定のために、帰国後の外部検定試験の受験を位置付ける。
- ・小・中学校各20名及び高等学校10名の英語教育推進リーダーまたは海外派遣研修参加者（過去の参加者も含む）を活用した講座型研修を計画的に実施し、指導力と併せて英語運用能力を高める。

②求められる英語力（CEFR A2レベル相当以上）を有する生徒の割合

【目標及び数値指標】

・別紙 目標管理書のとおり

【R1現状】・高等学校 42% ・中学校 58%

- 【方 策】
- ・高等学校では、英語力強化のために、県立高等学校の全ての生徒が、ALTとの授業を少なくとも週1回程度受講できるようにALTを増員する。
 - ・小・中学校英語指導力向上講座において、大学教授及び文部科学省教科調査官から新学習指導要領を踏まえた授業改善の視点を学ぶ。
 - ・小・中学校では、各推進校において、「伝え合う力」の育成につながる指導の在り方を、県教育委員会と共同で研究する。また、公表会等の機会を生かし、その研究成果を県内に紹介していく。
 - ・岐阜県版学習到達目標（CAN-DOリスト）を小・中・高等学校と接続したものに改良し、各校種でどこまでの英語力を身に付けさせるのかを明確にする。
 - ・中学生の表現力を高めるために作成した岐阜県版表現集「ミナモの夢ノート」を活用した実践例を、学校訪問等を通して県内に広めていく。
 - ・小・中・高等学校の英語教育推進リーダー（小・中・高：10名を指定）を講座講師として招聘し、実践発表や公開授業を行う等の実践的な研修を合同で実施することで、各学校段階の連携した授業改善を図る。

③「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況（設定・公表及び達成状況の把握の状況）

【目標及び数値指標】

- ・別紙 目標管理書のとおり

- 【R1現状】
- ・高等学校 設定 100% 公表 37% 達成状況の把握 46%
 - ・中学校 設定 100% 公表 45% 達成状況の把握 79%

- 【方 策】
- ・高等学校では、全ての学校に「CAN-DOリスト」の形式による技能別に設定した学習到達目標の公表や、達成状況の把握を継続して求める。
 - ・中学校英語指導力向上講座において、学習到達目標の見直しと達成状況の把握をするための評価について学ぶ研修を実施することで、各校の学習到達目標を生かした授業改善及び達成状況を把握する評価の充実、改善を促す。
 - ・中学校では、これまで各学校で使用してきた学習到達目標とパフォーマンス課題を、新学習指導要領の目標及び県版の学習到達目標と照らし合わせながら、教育課程講習会で改善を図る。それによって、達成状況の把握率を高める。
 - ・中学校では、パフォーマンステストを実施する際には、生徒に再度学習到達目標を示してから行うように、学校訪問等で各学校に促し、公表率を高める。
 - ・小学校では、英語教育推進リーダーを講座講師として招聘し、県教育委員会が作成した岐阜県版学習到達目標（CAN-DOリスト）を活用した実践の紹介等を行うことで、県内への普及を図る。

④生徒の授業における英語による言語活動時間の割合

【目標及び数値指標】

- ・別紙 目標管理書のとおり

- 【R1現状】
- ・高等学校 65% ・中学校 95%

- 【方 策】
- ・高等学校では、県立63校に対し、ALT53名を配置し、Team Teachingの効果的な運用をさらに促進する。
 - ・中学校に指導主事が訪問する際には、言語活動の時間が十分に確保できているかだけでなく、英語力の向上につながる言語活動になっているか、その質に関わる助言を行う。
 - ・各中学校にて、目標とする言語活動時間の割合を設定し、各教育事務所で把握する。各地区の指導主事が学校訪問をした際には、その実施状況を確認する。
 - ・小・中学校では、英語教育推進リーダーを講座講師として招聘し、授業でも日常生活とつながりのあるコミュニケーションの場面を工夫した実践の紹介等を行うことで、授業改善の具体を示す。

⑤「話すこと」及び「書くこと」における「外国語表現の能力」を評価するためのスピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況

【目標及び数値指標】

- ・別紙 目標管理書のとおり

【R1現状】	・高等学校	スピーキングテスト	コミュニケーション英語Ⅰ	1.0回
			コミュニケーション英語Ⅱ	0.9回
			コミュニケーション英語Ⅲ	0.2回
			英語表現Ⅰ	0.6回
			英語表現Ⅱ	0.5回
			ライティングテスト	コミュニケーション英語Ⅰ
			コミュニケーション英語Ⅱ	1.0回
			コミュニケーション英語Ⅲ	0.2回
			英語表現Ⅰ	1.1回
			英語表現Ⅱ	0.9回
	・中学校	スピーキングテスト		3.6回
		ライティングテスト		2.9回

- 【方 策】
- ・高等学校では、教育課程講習会での周知に加え、大学教授によるワークショップを通して、発信型技能の強化を意図した言語活動や生徒の意欲を高める話す力・読む力の評価方法を重点的に学ぶ講座を新規に構築する。
 - ・高等学校において、大幅に増員したALTを活用したパフォーマンステストを実施できるよう、ALT対象の研修を通して周知を図り、実践交流を位置付ける。
 - ・中学校英語指導力向上講座において、新学習指導要領に基づいた評価について学ぶ機会を設けることで、学習到達目標を生かした授業改善や4技能を測る評価方法について理解する。
 - ・小・中学校では、岐阜県版学習到達目標（CAN-DOリスト）に示した、パフォーマンステストの課題を参考に、自校のパフォーマンス課題を設定するように教育課程講習会で促す。
 - ・令和元年実施の英語教育実施状況調査において、実施回数の少ない学校を把握し、各教育事務所指導主事を中心に、目標管理書に定めた実施回数となるための助言を学校訪問等で行う。

⑥英語担当教員の授業における英語使用状況

【目標及び数値指標】

- ・別紙 目標管理書のとおり

【R1現状】・高等学校 57% ・中学校 90%

- 【方 策】
- ・高等学校では、指導主事が、学校訪問や研修講座等により、ALTを活用して授業を英語で行い、授業を実際のコミュニケーションの場面とする言語活動を通して、生徒の英語力向上を図った取組を紹介し、改善に向けた指導・助言を行う。
 - ・小・中学校では、英語教育推進事業の推進校にて、教師と児童生徒のやり取りを通して、どのように新しい表現を導入しているのか、モデル授業を構築し、動画にて県内に広めていく。
 - ・中学校英語指導力向上講座において、英語教育推進リーダーを講座講師として招聘し、All Englishで授業を進める実践の紹介や模擬授業を行うことで、指導改善を図る。

⑧英語担当教員に対する研修実施回数及び研修受講者数

【目標及び数値指標】

- ・別紙 目標管理書のとおり

- 【R1現状】・高等学校 研修回数 32回 受講者数 166人
 ・中学校 研修回数 30回 受講者数 346人
 ・小学校 研修回数 57回 受講者数 694人
- 【方 策】・派遣型研修及び講座型研修の趣旨、内容等について、各種会議等において周知を図り、参加を促す。
 ・派遣型研修では、報告会や還元研修を実施し、その成果を明確に捉える。
 ・講座型研修では、各研修後の「PDCAシート」（県教育委員会の授業改善策の一環）を活用し、研修後の成果をより明確に捉える。さらに、研修内容をどのように実践に活用したかについても、アンケートを通して捉える。

○小学校の新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合

【目標及び数値指標】

- ・別紙 目標管理書のとおり

【R1現状】・R2年度新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合…15.4%

- 【方 策】・R2年度教員採用試験では、加点制を導入し、「小学校教諭」受験者のうち、中学校教諭「英語」の普通免許状（取得見込を含む）を有する者を加点対象とし、一定の英語力を有する者の人材確保に努めている。
- ・さらに小学校の新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合を高めていくために、高校生、大学生を対象とした教職説明会において、グローバル化が急速に進展する中で、外国語のコミュニケーション能力の向上を図るため外国語教育に重点を置いている現状を伝え、在学中に資格を取得するよう啓発していく。

(3) 研修の体系と内容の具体

研 修 名：	英語教師のための外部検定試験
研修対象者：	小学校・の英語専科教員及び中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校の英語教員。特に、小学校の中核教員・英語専科教員の受講を奨励する。
研 修 目 的：	英語担当教員の英語力の向上 新規採用者に占める一定の英語力を有する教員の割合の目標達成
内 容：	外部検定試験（4技能対応）における指標達成のために、聞く力・読む力を高めるための e-Learning 学習及び話す力・書く力を高めるための事前研修の充実
受講予定者数：	50名
研修の評価方法：	英語4技能の外部検定試験及び参加者によるアンケート
外部専門機関との関わり：	外部検定試験実施業者に委託
英語教育推進リーダーの活用法：	なし
研 修 名：	小学校教員みんなで Classroom English 講座
研修対象者：	小学校教員（英語の免許を有しない者から専科教員までを含む） 特に、小学校の中核教員・英語専科教員の受講を奨励する。
会 場：	各教育事務所（県内6か所）
研 修 目 的：	小学校英語の教科化への対応 新規採用者に占める一定の英語力を有する教員の割合の向上
内 容：	外国人講師による音声面での指導方法 英語らしい発音や基本的な英語表現を身に付けるための演習 小学校の英語教育推進リーダーによるマイクロティーチング
受講予定者：	120名程度（×3回）
研修の評価方法：	参加者によるアンケート
外部専門機関との関わり：	外部専門機関に委託
英語教育推進リーダーの活用法：	研修講師として活用

研 修 名：	授業改善講座・教科指導力スキルアップ講座
研修対象者：	高等学校 英語教員
会 場：	総合教育センター
研 修 目 的：	発信型技能の強化を意図した言語活動と評価方法に焦点を当てた、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
内 容：	講義、授業研究、高等学校の英語教育推進リーダーによる研究授業
受講予定者：	各 30 名
研修の評価方法：	参加者によるアンケート
外部専門機関との関わり：	大学教授を招聘
英語教育推進リーダーの活用法：	授業者として活用
研 修 名：	中学校英語指導力向上講座
研修対象者：	中学校・義務教育学校・高等学校 英語教員（小学校教員を含む）
会 場：	総合教育センター・授業校
研 修 目 的：	小学校英語の教科化及び新学習指導要領に基づいた授業改善への対応
内 容：	文部科学省教科調査官による新学習指導要領を踏まえた指導改善や評価についての講義・演習 中学校の英語教育推進リーダーによる実践発表または模擬授業・公開授業
受講予定者：	50 名程度（× 3 回）
研修の評価方法：	参加者によるアンケート
外部専門機関との関わり：	文部科学省教科調査官を招聘
英語教育推進リーダーの活用法：	研修講師・授業者として活用
研 修 名：	小学校英語指導力向上講座
研修対象者：	小学校教員（中学校・義務教育学校・高等学校 英語教員を含む） 特に、小学校の中核教員・英語専科加配教員の受講を奨励する。
会 場：	総合教育センター・授業校
研 修 目 的：	小学校英語の教科化への対応
内 容：	大学教授による検定教科書を活用した指導方法や評価方法についての講義・演習 小学校の英語教育推進リーダーによる実践発表または模擬授業・公開授業
受講予定者：	50 名程度（× 3 回）
研修の評価方法：	参加者によるアンケート
外部専門機関との関わり：	大学教授を招聘
英語教育推進リーダーの活用法：	研修講師・授業者として活用
研 修 名：	外国語指導助手の指導力等向上研修
研修対象者：	小・中・高等学校の外国語指導助手（A L T）及び日本人英語教員（J T E）
会 場：	総合教育センター
研 修 目 的：	外国語指導助手の指導力向上と外国語教育に係る研究協議
内 容：	児童生徒の英語力を育成する指導法や Team Teaching の在り方について 学習指導要領の全面实施に向けた指導の在り方について A L T のサービス・規律等の理解について
受講予定者：	A L T 小・中・義務教育学校：37 名、高等学校：55 名 J T E 小・中・義務教育学校：37 名、高等学校：55 名
研修の評価方法：	参加者によるアンケート
外部専門機関との関わり：	自治体国際化協会（C L A I R）に講師派遣を依頼予定
英語教育推進リーダーの活用法：	研修対象者に含まれる場合、次年度以降の研修講師・実践報告者として活用

研修名：	英語教育海外派遣研修（独立行政法人教職員支援機構主催）
研修対象者：	高特の英語教員 1 名
会場：	英国または米国の大学に 2 か月
研修目的：	英語圏の大学研修に教員を派遣し、教員の英語力と指導力の向上を図る。 英語教員の次世代リーダーの育成
内容：	英語教育に関する指導法等の実践的な研究。 大学等での専門的な授業、活動への参加。
受講予定者：	高特の英語教員 1 名
研修の評価方法：	参加者の研修報告、英語 4 技能の外部検定試験、研修成果の還元度アンケート。
外部専門機関との関わり：	独立行政法人教職員支援機構、英または米の大学等、外部検定試験実施業者。
英語教育推進リーダーの活用方法：	研修対象者に含まれる場合、次年度の研修講師・実践報告者として活用
研修名：	国外大学プログラム（岐阜県グローバル化対応教員育成事業）
研修対象者：	小中高特の教員計 8 名
会場：	オーストラリアの大学に 1 カ月
研修目的：	英語圏の大学研修に教員を派遣し、教員の英語力と指導力の向上を図る。 英語教員の次世代リーダーの育成
内容：	ホームステイしながら大学等で E S L 語学研修プログラムを受講、また、英語教授法を学ぶ。
受講予定者：	小中高特の教員計 8 名
研修の評価方法：	参加者の研修報告、英語 4 技能の外部検定試験、研修成果の還元度アンケート。
外部専門機関との関わり：	岐阜大学教育学部教授等の外部有識者、企画運営業務委託業者、オーストラリアの大学等、外部検定試験実施業者。
英語教育推進リーダーの活用方法：	研修対象者に含まれる場合、次年度の研修講師・実践報告者として活用
研修名：	英語教育推進事業
研修対象者：	小・中・義務教育学校の推進校における英語教員
会場：	各推進校
研修目的：	各推進校で設定した研究主題の達成
内容：	指導改善及び評価の在り方
受講予定者：	研究主任・英語教員（小学校教員を含む）
研修の評価方法：	参加者によるアンケート
外部専門機関との関わり：	なし
英語教育推進リーダーの活用方法：	推進校の英語教員に含まれる場合、次年度の研修講師・実践報告者として活用

